

JR 東日本グループにおける『ダブルリサイクルループ』の推進について

～食品廃棄物を「電力」と「農業」でリサイクルする資源循環を実現～

- JR 東日本グループは、グループ経営ビジョン「変革 2027」で掲げる「ESG 経営の実践」の一環として、サーキュラーエコノミー（循環型経済）に取り組んでいます。駅ビルやエキナカ等から排出される食品廃棄物を、株式会社 J バイオフードリサイクル（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：蔭山 佳秀、以下、「J バイオ」）にて資源循環する取り組みを推進しています。
- このたび、株式会社 JR 東日本クロスステーション（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：西野 史尚、以下、「JR-Cross」）は運営する施設において、J バイオで生み出された電力を利用する「電力リサイクルループ」に取り組むとともに、J バイオの発酵残渣由来の肥料で生育した農作物を東京駅において販売・提供することで「農業リサイクルループ」に取り組めます。
- JR 東日本グループでは、事業活動で排出される食品廃棄物を「電力」と「農業」でリサイクルする『ダブルリサイクルループ』の取り組みを拡大し、持続可能なサーキュラーエコノミーを推進していきます。

（JR 東日本が目指すサーキュラーエコノミーについて：https://www.jreast.co.jp/press/2024/20240704_ho03.pdf）

■『ダブルリサイクルループ』推進に向けた JR-Cross の取り組み

1. 「電力リサイクルループ」の取り組み

JR-Cross が運営する「マーチエキュート神田万世橋」、「リエール藤沢」では、かねてより施設から排出される食品廃棄物処理を J バイオに委託し、100%リサイクルを行ってきました。また、LED 照明の導入や、エネルギー効率の高い空調設備への切り替えを行うなど、環境に配慮した施設運営に取り組んでいます。

2024 年 12 月からは、施設で使用する電力を自社で排出した食品廃棄物から創られたバイオガス由来の電力を含む実質再エネ^(※) 電力に切り替えることで、「電力リサイクルループ」を実現します。今回の取り組みにより、年間約 873 t の CO₂を削減できる見込みです。

(※) 食品廃棄物由来以外の電力も含め実質再エネ 100%

2. 「農業リサイクルループ」の取り組み

JR-Cross は、J バイオで生産した肥料で生育した野菜を、東京駅において、販売・提供します。

(1) 「LOOP de マルシェ」での販売

日時：2024 年 10 月 31 日（木）～11 月 2 日（土）

営業時間：10 時～20 時（全日）

場所：東京駅 地下 1 階改札内 グランスタ東京
「chikakita(チカキタ)」(地下北口改札内)

内容：①「やさいの秋葉」スタッフによる野菜の販売
②『ダブルリサイクルループ』の紹介

(2) 「LOOP de ベジタブル」での料理の提供

日程：2024 年 12 月 1 日（日）～3 週間程度

場所：東京駅レストラン店舗「THE CENTRAL」
地下 1 階改札内グランスタ東京スクエア ゼロエリア

内容：季節の野菜を活用したサラダなどの提供

「やさいの秋葉」について

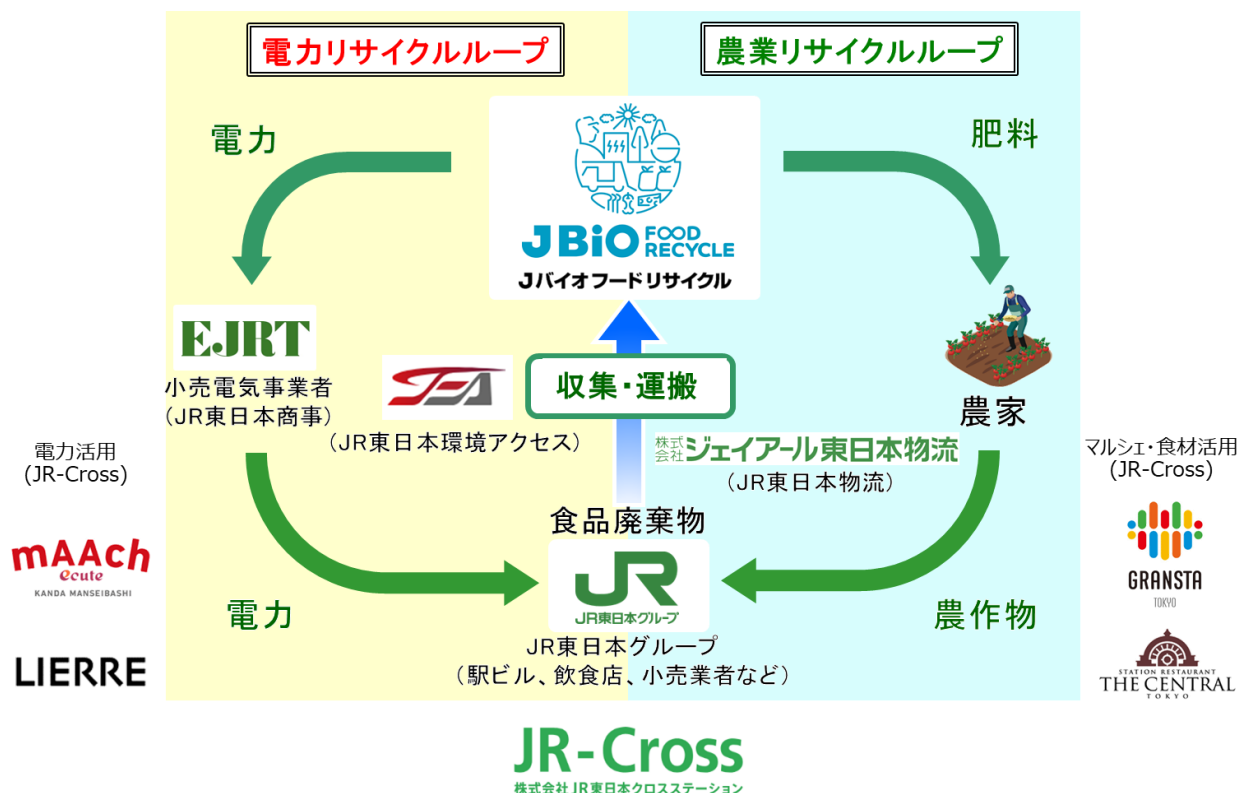
- ・神奈川県藤沢市に約 9 ha の農場を持つ農家
- ・年間 120 品目以上を栽培、土壌や品種などこだわりをもって栽培し、環境にやさしい農業を目指す
- ・J バイオで作られた肥料を利用した季節の野菜を栽培。東京駅にて、マルシェやレストランメニューとして野菜を販売・提供



■『ダブルリサイクループ』（イメージ）

JR-Cross が運営している施設や店舗から排出している食品廃棄物を、J バイオにて資源循環し、電気や農作物にリサイクルしています。お客さまのもとへ、施設の照明やレストランの料理としてお届けする『ダブルリサイクループ』を確立しました。

今後も環境にやさしい取り組みとして、『ダブルリサイクループ』を推進します。



■『ダブルリサイクループ』各社の役割

J バイオ	
東日本旅客鉄道株式会社	・J バイオへの出資 ・JR 東日本グループ内における『UPCYCLING CIRCULAR』の推進
株式会社 JR 東日本環境アクセス	・J バイオへの出資 ・食品廃棄物の収集運搬
株式会社 J バイオフードリサイクル	・食品リサイクル・バイオガス発電施設の運営
電力リサイクループ	
株式会社 JR 東日本商事	・グループ施設へ食品廃棄物由来の再エネ電力を供給
株式会社 JR 東日本クロスステーション	・食品廃棄物の排出 ・運営する施設にて食品廃棄物由来の電力を利用
農業リサイクループ	
株式会社ジェイアール東日本物流	・藤沢駅から東京駅までの野菜の配送 (納品便の帰り便等を有効活用した配送)
株式会社 JR 東日本クロスステーション	・食品廃棄物の排出 ・J バイオの発酵残渣由来の肥料で生育した農作物の販売、飲食店での利用

■資源循環事業コンセプト『UPCYCLING CIRCULAR』

JR 東日本グループではグループから発生する廃棄物を、グループ会社などと連携し、回収、収集・運搬、リサイクル、再資源化に取り組んでいます。『ダブルリサイクルループ』はリサイクル、再資源化して生み出した電力や農作物を JR 東日本グループ内で利活用することにより、持続可能なサーキュラーエコノミーを推進する『UPCYCLING CIRCULAR』の取り組みです。

2024 年 4 月より J バイオで発電した環境にやさしい電力を、株式会社 JR 東日本商事（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：大西 秀麿）が、食品廃棄物の排出元であるグループ施設に供給する「電力リサイクルループ」の取り組みを開始しています。また、J バイオでは、食品リサイクルの過程で発生する発酵残渣を肥料として農家に提供し、この肥料で生産した農作物を食品廃棄物の排出事業者の飲食店等で食材として利用、その後発生した廃棄物を再び J バイオに持ち込み肥料原料とする取り組み（「農業リサイクルループ」）を推進しています。

UPCYCLING CIRCULAR

